

新卒者等採用動向調査結果

平成20年3月
東京商工会議所

【調査目的】 企業の採用活動の多様化が進む中で、新卒者等採用活動の実態やニーズを把握するもの。

【調査対象】 東京商工会議所会員から資本金1,000万円～1億円の条件で、5,000件の企業を無作為抽出

【調査期間】 平成20年1月7日（月）から1月31日（木）の約3週間

【調査方法】 調査票郵送後、FAXによる回収

【有効回答】 671社（回答率13.4%）

| 回答企業・業種別分布 | |
|------------|------|
| 建設業 | 210 |
| 製造業 | 62 |
| 情報通信 | 52 |
| 運輸 | 29 |
| 卸・商社 | 129 |
| 小売・専門 | 27 |
| 不動産 | 4 |
| 飲食／宿泊 | 6 |
| サービス | 83 |
| その他 | 59 |
| 無回答 | 10 |
| 合計 | 671社 |

| 回答企業・従業員別分布 | |
|-------------|------|
| 50名未満 | 87 |
| 50名～100名未満 | 227 |
| 100名～300名未満 | 262 |
| 300名以上 | 80 |
| 無回答 | 15 |
| 合計 | 671社 |

【調査結果】

○新卒採用数が前年を上回った企業が増加（Q1・Q2-②）

2008年4月の新卒者の採用について、「採用予定あり」と回答した企業が60.5%と、前年比2.3ポイント増加したのに対し、「採用予定なし」と回答した企業は38.5%で、逆に前年比3.3ポイント減少した。

「採用予定あり」と回答した406社の採用数の増減をみると、前年に比べて「上回った」企業が42.5%（前年比8.5ポイント増）で、「下回った」企業は31.3%（前年比5.0ポイント減）と採用数が前年を上回った企業が増加している。

○「予定人数採用できず」が過半数（Q2-①②）

「採用予定あり」と回答した企業の採用状況は、「予定通り採用できた」が45.6%で前年に対し10.5ポイント増加と改善がみられるものの、「予定人数ではないが採用できた」企業は40.1%、「一人も採用できなかった」企業は13.3%で、双方合わせると53.4%と過半数をこえる企業が予定人数を採用できていない状況にあり、中小企業の採用難が続いている。

なお、「一人も採用できなかった」企業のうち1月末現在も「採用活動を継続中」が81.5%あった。

○採れない理由は「PR不足」（Q2-⑤）

「予定通りではないが採用できた」、「一人も採用できなかった」企業217社の確保できなかった理由としては、「PR不足」が28.6%（前年調査29.3%）と最も多く、次いで「いい人材がない」24.9%（同19.8%）、「学生の内定辞退」24.4%（同19.2%）、「採用担当者の不足」12.9%（同14.4%）、「採用活動時期の見誤り」12.9%（同10.2%）となっている。

○効果のあるツールは「求人情報サイト」（Q2-④）

2008年4月の新卒者の採用予定ありと回答した企業406社に、採用活動に利用したツールを聞いたところ、「学校への求人票の送付」が74.6%で利用率が最も高く、次いで「自社ホームページでのエントリー受付」53.4%、「求人情報サイトへの参加」50.5%の順となっている。

さらに、各募集ツールの効果について聞いたところ、「最も効果があったもの」として、昨年同様「求人情報サイトへの参加」が最も多く、次いで「合同会社説明会への参加」、「学校就職部の訪問」の順となっている。

○来年度も採用意欲は高い水準（Q3-①）

来年度（2009年4月新卒者採用）について、「採用予定なし」と回答した企業は、18.6%で前年比3.0ポイント増加、「採用予定あり」と回答した企業は、53.7%と前年比1.9ポイント増加し、前年に続き過半数を超えており、「まだ決めていない」が25.6%あり、中小企業の来年度の採用意欲はいぜんとして高い水準にある。

○「採用活動」を早める傾向が進む（Q3-②）

来年度（2009年4月新卒者採用）の「採用予定あり」と回答した企業360社の採用活動の開始時期について、「2008年3月以前」が66.4%と前年の58.4%に比べ8.0ポイント増加しており、採用活動時期を早める傾向がいちだんと進んでいることがうかがわれる。ちなみに、前々年の調査では、55.7%であった。

○新卒採用のポイントは「協調性（コミュニケーション能力）」（Q4）

新卒者を採用するにあたり重視するポイントとして、「協調性（コミュニケーション能力）」58.1%、「人間性」46.8%が1位、2位となり、以下「積極性」、「常識・マナー」、「健康・体力」との回答が3、4、5位となっており、1位から5位まで昨年と同じ顔ぶれになった。

○約8割の企業が中途採用に意欲的（Q6）

ここ数年の間での中途採用の実施について、「行った」と回答した企業は602社89.7%で、「検討中である」と回答した企業1.5%を合わせると91.2%と前年調査の「予定あり」と回答した企業69.3%と比べ21.9ポイント増加している。また、「行った」と回答した企業の内「今後も行おう」は80.2%で、中途採用に対する意欲の高さがうかがえる。

中途採用を行う理由としては、「欠員補充」が65.8%、次いで「事業拡張・新規事業開始」18.6%、「新卒採用が難しい」6.4%となっている。また、採用にあたって、重視するポイントを聞いたところ、「専門知識技能」が43.7%で最も多く、次いで「実務経験」39.8%、「人間性」34.1%、「積極性」30.8%、「コミュニケーション」30.0%の順となっている。

○採用担当者の悩みは、「母集団確保」「採用方法・ツール・コスト」（Q7）

最近の採用に関する悩み等を自由記入で聞いたところ、回答企業123社の内5割以上の企業が「人材確保・母集団確保に関すること」を上げており、具体的には「エントリーの減少」、「大手企業の活発な採用活動による影響」、「理系、技術系の人材がなかなか採用できない」等、採用したい学生が集まらないことを訴える意見が目立った。

その他、「採用方法・ツール・コストの上昇」、「内定辞退の増加」、「学生の質・レベル・学力の低下」、等に関する意見が寄せられた。